

# Q ごみ問題解決のために

いずもびんたろう  
出雲敏太郎 議員



# A 戸別収集を長期的に検討したい

**問** 自治会加入率は。

**答** 約57・5割となっている。

**問** 様々な事情により、自治会が管理するごみ集積所にごみを出せない方への対応は。

**答** 他の自治会の事例や情報などを提供し、地域で話し合うことを推奨している。

**問** 現在、ごみの収集運搬を近隣の自治体と広域で行っているが、県内の他の自治体の状況は。

**答** 80・9割が市町村単独で収集運搬を行っている。

**問** 広域で収集などを行うスケジュールメリットは。

**答** 一括して事務処理や調整などを行えるので、事務の効率化を図ることができる。

**問** 自治会加入率が6割を切っている中で、市が自治会に集積所の管理などをお願いしていることが、ごみに関する問題の発



高倉クリーンセンター

生要因の一つと考えている。一方、広域で収集運搬を行う限り、戸別収集することは難しい。市単独でごみ収集を行い、戸別収集の実現を。

**答** 鳩山町にごみ焼却施設が移転する影響や高齢化などの様々な情勢の変化を踏まえ、今後長期的に検討したい。

◎その他の質問

一 学校における諸課題

二 口腔内の健康増進について

# Q 不登校児童・生徒の現状と課題

たかはし けんじ 議員  
高橋 剣二



# A 早期発見・早期対応を心がけている

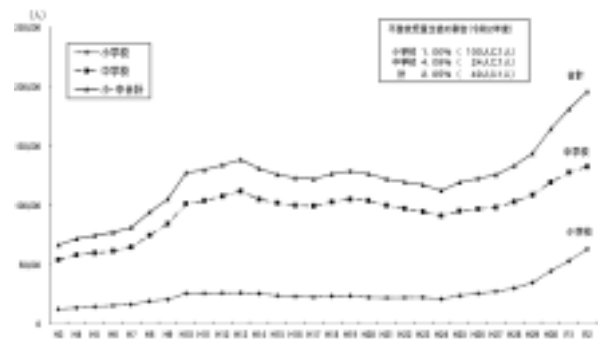
**問** 市内小・中学校の不登校児童・生徒の人数と割合は。

**答** 令和2年度は、小学校が33人で1割、中学校が64人で3・6割である。この3年間で、小学校が0・2割、中学校が0・4割増加している。

**問** 不登校に至るまでの原因と過程について。

**答** 主な原因には、友人関係、親子関係、無気力、不安などがあるが状況は個々に異なり、複数の要因が重なる場合もある。各学校では、一人ひとりの小さな変化を見逃さないように日々の観察に努め、早期発見・早期対応を心がけている。

**問** 学力の維持・人間関係の構



不登校児童生徒数の推移のグラフ

出典：文部科学省ホームページ (<https://www.mext.go.jp/>)

**答** 築などの指導や配慮について。自立に向けた支援をしている。

**問** 信頼関係を大事にしながら学習面での支援は、本人の状況に応じた対応を取っている。

**答** 高等学校への進学率、就職などの対応について。

**問** 不登校生徒の2年度の高等学校の進学率は94・1割で、就職希望者はいなかった。

**答** 専門的資格を有する有識者からの教職員への支援について。

**問** スクールカウンセラー、医師、弁護士・児童相談所などと連携し、専門的な立場から支援していただいている。